トウキョウＸ遺伝資源の有効活用法の確立

【研究概要】

万が一の青梅庁舎への悪性伝染病侵入の備えとして、または種豚導入の新たな方法として、トウキョウＸの受精卵を採取・保存を進めてきた。しかし保存胚の生存は確認できたものの、母豚に移植しても受胎には至らず、子豚の生産に向けて課題が残された。

トウキョウＸ保存胚の移植による子豚生産を実証することを目的に採卵方法と保存胚の移植方法を検討した。

（１）採卵時の処置としての偽妊娠法は人工流産法と比較して採卵数、正常胚数で劣るものの、有意差は認められず正常胚割合は高かった。このことから動物福祉に配慮した偽妊娠法は人工流産法の代替となり得る。

（２）胚移部位において子宮体部および子宮角深部胚移植の生産頭数はいずれも０頭であった。先行研究では移植用カテーテルを使用していることから、移植器具の違いが影響している可能性がある。